

し げん

「資源プラ」という提案。

廃プラを「処理する」から資源プラを「製造する」へ。

世界のプラスチックリサイクルを取り巻く環境は目まぐるしく変化をしており国内外問わず、物量重視から品質重視へ大きく変わろうとしています。

グローバルに発展したプラスチックリサイクルのマーケットには、これまで「品質感の無いプラスチック」も流通しており、いずれ、そのようなプラスチックが流通しなくなる時代が到来する事を感じていました。

そこで、私たちはその解決策の一つに意識の改善が必要だと考え、業界のトップランナー達とともに「廃プラ」という呼び方から、「資源プラ」と呼び方に変え、この呼び方や考え方をお客様、関係企業様と共有する事で、「廃プラを単に処理すること」と差別化し「資源プラを製造すること」にシフトする活動を始めています。

品質向上させ資源プラを流通しやすくするだけでなく、リサイクル現場のモチベーションを高め、業界の意識を変える活動として、マスコミや省庁でも取り上げられるようになりました。

「資源プラ」とは「資源として流通するプラスチック」を「廃プラ」と区別する新しいコンセプトです。

「処理する」ではなく「製造する」へ



資源プラ®

「資源プラ」と呼ぶことで意識を変える。
プラスチックリサイクルの未来が変わる。

www.panachemical.com



「廃プラ」と呼んでいては、品質は良くならないのではないだろうか？



二枚の写真が共に「廃プラ」と、呼ばれている事実。

左写真は、適正なりサイクル処理されていない「廃棄されるべきプラスチック」ですが、右写真は適正なりサイクル処理がされた「資源として有価で取引されているプラスチック」です。いままで、この2つは同じ「廃プラ」と呼ばれていました。

「廃棄されるべきプラスチック」と、「リサイクル処理をされたプラスチック」を、区別する。

この十数年間は、原油の高騰、海外市場の発展により、環境負荷を無視したリサイクル処理が当たり前になり、限りなく「廃棄される」べきプラスチックまでも流通してきました。今後はプラスチックリサイクルも原油価格の下落とともに「品質の時代」へとシフトします。それには「廃棄されるべきプラスチック」と「適正なりサイクル処理をされた資源としてのプラスチック」を区別する必要があります。

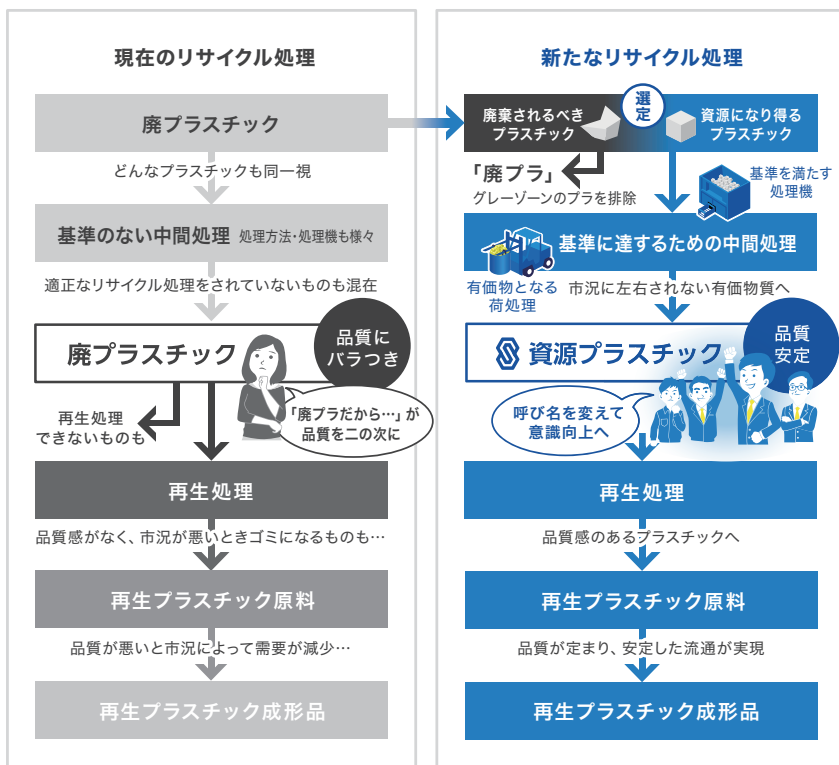


「資源プラ」と呼ぶことで意識を変える。プラスチックリサイクルの未来が変わる。

わたしたちは、業界のトップランナーとワーキンググループを結成し「どういう呼び名が適切なのか？」「その定義とは？」検討を重ねてきました。そして、「適正なりサイクル処理をされた資源としてのプラスチック」を「廃プラスチック」と呼ばないことから始め、「資源プラスチック」と呼ぶことに決めました。「資源プラスチックの原則」を以下のように定義付けました。

資源プラスチック（通称：資源プラ）の定義

1. 適切な前処理、中間処理を施す事で、全量再生プラスチック原料の基材として利用できる品質を保持する処理物である事。
2. 品質とは、汚れの付着や異物の混入の程度、中間処理に伴う物性低下の程度などの事で、具体的な品質基準は別途定める。
3. 処理物は輸送時や保管時において、取り扱い易く、物理的・化学的に安定であり、安全かつ衛生的に取引ができる荷姿に仕上げられている事。
4. プラスチック廃棄物の適切な処理を進めるため、関連法令に定める基準を満たし、法令を遵守する事。
5. 輸出に供される処理物については、輸出に関する国内法および国際条約、輸出先の国内法に定める規制基準に適合する事。
6. 盗品その他財産に対する罪に当たる行為によって領得された物(盗品等)など、違法・脱法行為に由来するプラスチック廃棄物の処理物ではない事。



プラスチックリサイクルの総合商社



創業40年の実績 全国2000社への機械納入 月間7000tのプラスチックを回収

株式会社 パナ・ケミカル 〒168-0074 東京都杉並区上高井戸1丁目 8-3
TEL 03-3302-7531 FAX 03-3306-0096 E-mail support@panachemical.co.jp
URL <http://www.panachemical.co.jp>